平成21年8月

第一次教育改革成果報告書

近畿大学21世紀教育改革委員会

【はじめに】

近畿大学は平成18年2月、「21世紀教育改革委員会」を発足させ、少子化に象徴される厳しい教育環境の中で、どうすれば教育内容を高めつつ優れた学生を迎え続けることが出来るか、教職員が一体となって叡智を絞り合った。その結果、「学生を大切に作る大学づくり」と「教員の教育力の向上と自己刷新」を二大目標に掲げて、少なからぬ成果を上げて来た。本報告書は、改革に着手してから平成21年8月に至る3年半を「第一次教育改革」の期間として位置づけて、主要な成果と今後の課題をまとめたものである。

【I】第一次教育改革の組織と運営

学長の諮問機関として発足した21世紀教育改革委員会（委員長、畑博行学長）の下に、「教育改革・開発機構」と「国際化推進機構」を設け、さらに前者の「教育改革・開発機構」内には①学習支援対策委員会②就職支援対策検討委員会③大学院改革委員会④図書館対策検討委員会⑤全学入試対策検討委員会の5つの委員会を設置して検討を進めた。同時に既存の常設機関である「全学共通教育機構」（機構長、畑博行学長）内にも「教養教育推進・検証委員会」と「英語教育向上委員会」を設けて、相互に連携しながら約2年間にわたって改革策を検討した。

その結果、平成20年2月に「21世紀を生き抜く近畿大学教育改革ビジョン（略称：改革プロジェクト2008）」を策定し、同年4月からの平成20年度を＜改革実行元年＞と位置づけて、改革策の実現・実行段階に入った。改革にあたっては、速やかに実現すべきプロジェクトから順次着手することに重点を置いたが、同時に中・長期的な展望に立つて取り組むべき課題を明確にすることも心がけた。

以下は、第一次教育改革の主な成果である。

【Ⅱ】第一次教育改革の主な成果

「1」「教育改革推進センター」を新設

21世紀教育改革委員会で提言された改革策等を推進・実行する本学の常設機関として、平成20年4月に新設された。センター内に「教育評価部会」と「教育改善部会」を設け、教育改革の二大目標の一つである「教員の教育力の向上と自己刷新」に重点を置いて取り組みを進めている。現在、次のような改革策を推進している。

- (1) F D (Faculty Development) の開発と導入
- (2) 授業用シラバスの記載内容の改善と向上
- (3) 学生による授業評価アンケート方法の改善
- (4) 入学前・入学後のリメディアル教育の改善と促進
- (5) 教員の業績評価方法の改善と促進

「2」学内外の国際化を積極的に推進し、学生の海外派遣を支援する奨励金制度等を実現

“世界を見つめ、日本を見つめ、自分自身の生き方を探求する学生の育成”をモットーに、平成20年度を「国際化推進元年」と位置づけて、下記のプロジェクトを実現した。

(1) 海外語学研修奨励金の支給

協定先の大学と結んで夏季休暇中等に行う英語、韓国語、中国語の「語学研修」に参加する学生に、それぞれの語学力に応じて3段階（最高20万円）の海外語学研修奨励金を支給する。

(2) 海外研修・交流ツアー「未来をひらく旅」の実現と奨励

学生たちが異文化に出会い、異なる国々の人々と交流することの大切さを体験することを通じて、国際的な視野を広げ、絆を結ぶ機会として、「未来をひらく旅」を新設した。参加する学生には、総費用のうち、現地費用の2分の1を最高10万円を限度に「海外研修奨励金」として支

給する。

(3) 「21世紀を生きる国際理解セミナー」の開催

本学の学生たちがキャンパスに居ながらにして国際的な視野と学識を深めることが出来るよう、海外で顕著な研究や活動を行っている著名人を招き、特別講義として開催する。

(4) 「近畿大学危機管理マニュアル」の制定

学生・教職員が海外に留学や研修、旅行で渡航した際、万一の事故や病気等に遭遇するのに備えて、敏速に対応出来るよう上記マニュアルを制定し、平成21年4月から実施している。

「3」 “学生を大切にせる授業” の実現

教育改革の二大目標の一つである「学生を大切にせる大学づくり」を実現するため、授業を中心に次のような施策を推進している。

(1) 全学部で、少人数によるゼミナール制度を必修化

本学は少人数教育実現の一環として、すでに全学部で新1年生を対象に「基礎ゼミ」を実施している。さらに3、4年の2年間もほぼ全学部でゼミナール（演習等）に所属出来るように推進している。

(2) 受講生200人以上の“マンモス授業”の解消

一部の学部では受講生が200人を越える授業があるため、2回の授業に分けるなど改善し、学生が集中して講義を受けられるよう環境を整える努力を続けている。

(3) “My Campus Plan”の作成と配布

学生が4年間の学生生活を計画的かつ有意義に過ごせるよう、勉学・社会体験等の目標と計画を立て、その実施状況や到達度を記入出来る上記のCD-Rを作成。平成21年度の新入生から全員に配布し、基礎ゼミ等で教師が指導するなど活用している。

(4) 自校学習教材の作成と活用

1925年（大正14年）に創立された近畿大学は、創立以来84年の歴史を持ち、卒業生も40万人を越えている。学生たちが自ら選んで入学した本学が、どんな歩みと成果を持つ総合大学であるかを映像で分

かりやすく紹介する教材として「発展史編」と「卒業生編」の2種類のDVDを作成し、基礎ゼミ等で活用している。

(5) 「キャリアデザイン」授業の実現

卒業後の就職や進学指導は、学生たちにとって“人生の自立基盤づくり”の第一歩として位置づけている。その推進策として、平成21年度から全学統一科目として「キャリアデザイン」教育を導入している。

「4」保護者対象の「教育懇談会」の全国的な開催を実現

本学が日頃、どのような授業を行い、どのように学生を指導しているかを保護者にフィードバックして、質問に答えたり意見交換を行う「教育懇談会」を積極的に推進する。保護者の対象も全学年とし、平成21年度は北海道から九州まで全国約15か所で開催する。

「5」「21世紀研究開発奨励金」等の新設

教員の教育力と共に、研究力の一層の向上をはかるため、新たな奨励策として①「21世紀研究開発奨励金」(最高1,000万円)②「21世紀教育開発奨励金」(最高200万円)を平成20年度から実施している。

【Ⅲ】今後の課題と展望～“成果を持続し、改革を継続する”

「1」第一次教育改革で実現した成果は、引き続き実施し、内容を充実させる。

「2」平成21年9月からを「第二次教育改革期」と位置づけて、本学の教育改革を継続し、よりよい改革と発展策を検討する。

「3」その際、21世紀教育改革委員会に設けた機構と各種委員会等を見直し、再編する。

見直しにあたっては、常設されている各種委員会等との重複を改め、役割分担を明確にする。その上で、より一層の連携による改革や改善が進むようにする。

「4」第二次教育改革の検討にあたっては、これまで各機構・委員会で行った協議事項を点検し、役立てる。

以上